

世界が目を見張るピアニスト

2024年
リーズ
国際コンクール
優勝

2024年
モントリオール
国際コンクール
優勝

2022年
マリア・カナルス
国際コンクール
優勝

ジェイデン・アイジク=ズルコ

ピアノ・リサイタル

©Waldy Martens

Jaeden Izik-Dzurko

Piano Recital

Program

ショパン:前奏曲 嬰ハ短調 op.45

Frédéric Chopin: Prelude in G minor, op.45

スクリャービン:前奏曲 op.11より

第9番 ホ長調 / 第10番 嬰ハ短調 / 第11番 ロ長調 / 第12番 嬰ト短調
第14番 変ホ短調 / 第13番 変ト長調 / 第6番 ロ短調

Alexander Scriabin: 24 Preludes op.11,

No.9 in E major / No.10 in C sharp minor / No. 11 in B major / No. 12 in G sharp minor /
No. 14 in E flat minor / No. 13 in G flat major / No. 6 in B minor

フランク:前奏曲、コラールとフーガ

César Franck: Prelude, Choral and Fugue

ラフマニノフ:10の前奏曲 op.23

Sergei Rachmaninoff: 10 Preludes, op.23

2027. **1/17** 日
3:00PM開演 (2:30PM開場)
A¥4,500 B¥3,500 (税込/全席指定)

兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22 阪急西宮北口駅南改札ロスク/ JR西宮駅より徒歩15分(阪急バス7分)

一般発売

9/6

日

芸術文化センター
チケットオフィス

インターネット予約

※窓口での販売(残席がある場合)は9/8(火)より

☎0798-68-0255

(10:00AM - 5:00PM 月曜休み ※祝日の場合翌日)

<https://www.gcenter-hyogo.jp>

芸術文化センター会員
先行予約受付開始

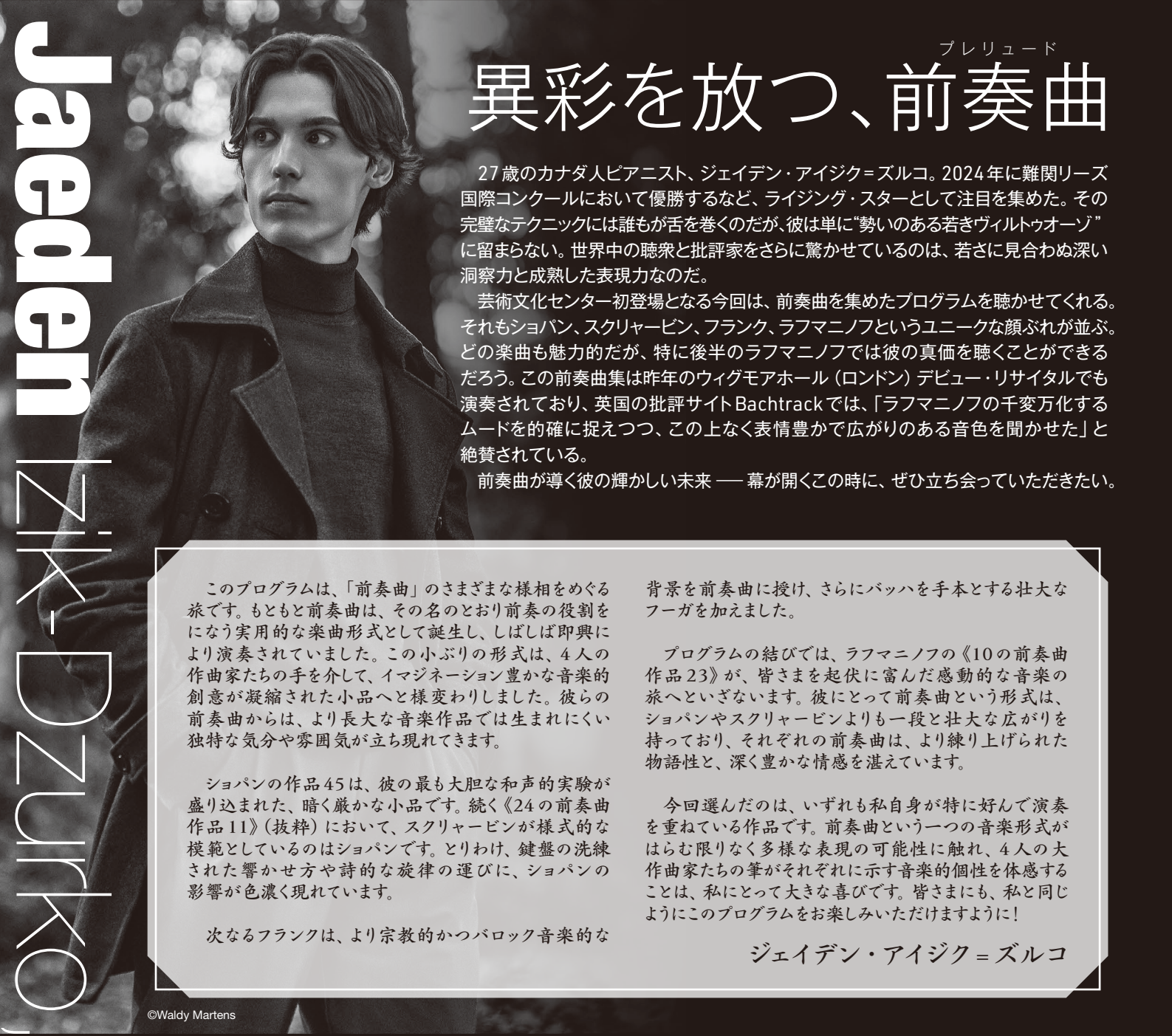
9/4 金



兵庫県立
芸術文化センター



※車いす席はお電話でのみ販売しております。 ※未就学児童はご入場いただけません。
※やむを得ない事情により、曲目等が変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。
主催:兵庫県、兵庫県立芸術文化センター



Jaeden
Izik-Zurko

プレリユード

異彩を放つ、前奏曲

27歳のカナダ人ピアニスト、ジェイデン・アイジク=ズルコ。2024年に難関リーズ国際コンクールにおいて優勝するなど、ライジング・スターとして注目を集めた。その完璧なテクニックには誰もが舌を巻くのだが、彼は単に“勢いのある若きヴィルトゥオーゾ”に留まらない。世界中の聴衆と批評家をさらに驚かせているのは、若さに見合わない深い洞察力和成熟した表現力なのだ。

芸術文化センター初登場となる今回は、前奏曲を集めたプログラムを聴かせてくれる。それもショパン、スクリャービン、フランク、ラフマニノフというユニークな顔ぶれが並ぶ。どの楽曲も魅力的だが、特に後半のラフマニノフでは彼の真価を聴くことができるだろう。この前奏曲集は昨年のウィグモアホール（ロンドン）デビュー・リサイタルでも演奏されており、英国の批評サイトBachtrackでは、「ラフマニノフの千変万化するムードを的確に捉えつつ、この上なく表情豊かで広がりのある音色を聞かせた」と絶賛されている。

前奏曲が導く彼の輝かしい未来——幕が開くこの時に、ぜひ立ち会っていただきたい。

このプログラムは、「前奏曲」のさまざまな様相をめぐる旅です。もともと前奏曲は、その名のとおり前奏の役割をになう実用的な楽曲形式として誕生し、しばしば即興により演奏されていました。この小ぶりの形式は、4人の作曲家たちの手を介して、イマジネーション豊かな音楽的創意が凝縮された小品へと様変わりしました。彼らの前奏曲からは、より長大な音楽作品では生まれにくい独特な気分や雰囲気立ち現れてきます。

ショパンの作品45は、彼の最も大胆な和声的実験が盛り込まれた、暗く厳かな小品です。続く《24の前奏曲作品11》（抜粋）において、スクリャービンは様式的な模範としているのはショパンです。とりわけ、鍵盤の洗練された響かせ方や詩的な旋律の運びに、ショパンの影響が色濃く現れています。

次なるフランクは、より宗教的かつバロック音楽的な

背景を前奏曲に授け、さらにバッハを手本とする壮大なフーガを加えました。

プログラムの結びでは、ラフマニノフの《10の前奏曲作品23》が、皆さまを起伏に富んだ感動的な音楽の旅へと誘います。彼にとって前奏曲という形式は、ショパンやスクリャービンよりも一段と壮大な広がりを持っており、それぞれの前奏曲は、より練り上げられた物語性と、深く豊かな情感を湛えています。

今回選んだのは、いずれも私自身が特に好んで演奏を重ねている作品です。前奏曲という一つの音楽形式がはらむ限りなく多様な表現の可能性に触れ、4人の大作曲家たちの筆がそれぞれに示す音楽的個性を体感することは、私にとって大きな喜びです。皆さまにも、私と同じようにこのプログラムをお楽しみいただけますように！

ジェイデン・アイジク=ズルコ

©Waldy Martens

ジェイデン・アイジク=ズルコ(ピアノ)

ジェイデン・アイジク=ズルコは、2024年にリーズ国際ピアノ・コンクールで優勝した27歳のカナダ人ピアニスト。彼のコミュニケーション能力、洗練された技術的な卓越、芸術的成熟は、聴衆はもちろんのこと、批評家や作曲家たちからも称賛されている。彼はリーズでの優勝の数か月前にも2024年5月のモントリオール国際コンクールで、カナダ人初の優勝者となった。遡る2022年にはヒルトン・ヘッド、マリア・カナルス、パロマ・オシア・サンタンデルの各国際コンクールで優勝し、国際的な評価を得ている。

マドリードの国立音楽堂、カーネギーホールのワイル・リサイタル・ホール、バンクーバー・リサイタル・ソサエティ、ミュンヘンのキュンストラウハウス、パリのサル・コルトーなどの著名なホールでリサイタル・デビューを飾ったほか、近年はモントリオール交響楽団、スペインのRTVE交響楽団、マドリッド交響楽団、ビルバオ交響楽団、オックスフォード・フィルハーモニー管弦楽団など

と共演している。また彼の演奏は、BBC Radio 3やBBC4 TV、CBC Radio、WQXR、medici.tvなどで聴くことができる。

2025年シーズンのハイライトは、ナショナル・アーツ・センター管弦楽団やロイヤル・リヴァプール・フィルハーモニー管弦楽団との共演のほか、パリのルイ・ヴィトン財団、ラインガウ音楽祭、ウィグモアホールでのソロ・リサイタル・デビューなどが挙げられる。同年春には韓国ツアーを行うほか、スタインウェイ入賞者コンサート・ネットワークを通じて、リサイタルやヨーロッパ各地のオーケストラと共演する。2024年10月には、リーズでの演奏の録音がワーナー・クラシックスからリリースされた。

2024年にはボルレッティ=ブイトーニ・トラスト・フェローシップを授与された。カナダのプリティッシュ・コロンビア州サーモン・アームで生まれ育ち、ニューヨークのジュリアード音楽院のヨヘヴェド・カプリンスキーのもとで音楽学士号を、プリティッシュ・コロンビア大学ではコリー・ハムのもとで音楽修士号を取得。現在、デトモルト音楽大学でヤコブ・ロイシュナーに、ローマのサンタ・チェチャーリア音楽院でベネデット・ルボに師事している。

便利なアクセス!!

大阪・梅田からも神戸・三宮からも
ホールまで15分

(阪急電車特急乗車の場合)

◎阪急 西宮北口駅 南改札口 スグ(連絡デッキで直結)

◎JR 西宮駅より徒歩15分(阪急バス7分)

※ご来場は、電車・バスなどの公共交通機関をご利用ください。

アクセス



<https://www.gcenter-hyogo.jp>

兵庫県立芸術文化センター
Hyogo Performing Arts Center

先行予約会員へ
ご登録はこちら

